

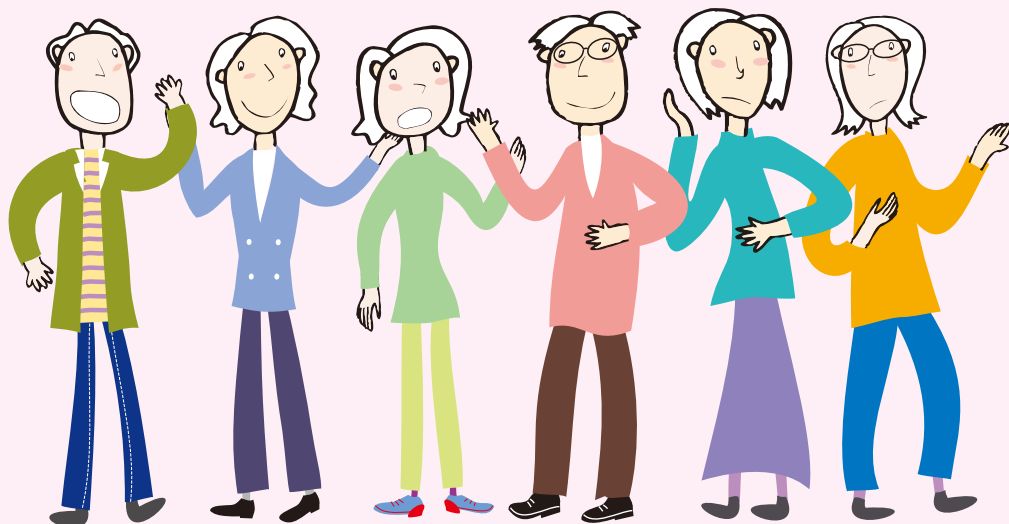
「はなれる」



エピソード

直子さんが出席した懇談会でのことです。出席した保護者を前に先生が話し始めました。

先生：「このあいだ、ある保護者から電話がありました。用件は、子どもが忘れていった社会科の資料集を届けてほしいかどうか、本人に確認してもらいたいということでした。このことについて皆さんはどう思われますか？」



保護者A：「子どものことを心配するのは親としてあたり前じゃないんですか。」

保護者B：「勉強にさしつかえないかどうか心配するのはわかるけど、子どもに確認してと頼むのはおかしいわ。」

保護者C：「一人の子どもにばかりかまうのはおかしいです。そんな時間があったら、もっとしっかり勉強を教えてほしいですね。」

保護者D：「だいたい過保護にしすぎですよ。中学3年生にもなっているんだから、自分のやったことは自分で責任をとらせるべきです。」

保護者A：「子どもは親がてまをかければ、それだけこたえてくれるものです。それに子どもにたずねるくらい、たいして面倒でもないでしょ。」

保護者B：「あまりにも個人的なことを先生に頼むのはおかしいですよ。大切な時期なんですから、先生にはもっと勉強の指導に集中してほしいんです。」

保護者E：「勉強とは関係ないんじゃないでしょうか。それより、家庭でしっかり子どもを教育できているかどうかの話だと思います。」

保護者D：「そのとおりですよ。そんなだから学校によけいなことまで押しつけるんですよ。」

保護者F：「言いにくいですけど、先生が子どものことをしっかり見てくれているという信頼感があれば、わざわざそんな電話をしなかったはずです。これまでの学校の姿勢にも問題があるんじゃないでしょうか。」

保護者B：「そうは言っても、中学3年生といえば大人の入り口じゃないですか。子どもが自立できるように考えるべきなんじゃないですか。」

保護者A：「いいえ、まだまだ子どもですよ。親がみていなければ何をするか分かりませんから、もっともってかまっていってあげることが大事なんじゃないですか。」

直子さんのひとりごと…

- みんなの言うことはそれぞれもっともだと思うけど、何かしっかりこないわ。いったい何が大事なのかなあ。子どもにまかせておけばいいんじゃないのかな。

議論は白熱するばかりです。

グループワーク

1 グループに分かれ、役割分担をしてこのエピソードを読みあげてみましょう

2 役割になってみて感じたことを話しあいましょう。

3 各グループのまとめを全員の前で発表してみましょう。

4 グループで、子どもの自立に向けて親はどうすればよいのかについて話しあいましょう。

5 各グループのまとめを全員の前で発表してみましょう。